

■石川雅望(宿屋飯盛)

いしかわまさもち
薩摩藩工事・1753＝

国学者としても狂歌師としても一流だった。

石川豊信を名乗る浮世絵師で江戸小伝馬町の旅籠屋糠屋七兵衛の五男に生まれる。

大岡忠光没・1760＝7歳：

・・・・・・1762＝9歳：

父の関係で、早くから学芸的環境の中で育ち、和学を津村涼庵に、漢学を古屋昔陽(秋山玉山の弟子)に学んだ。また狂歌を、初め頭光に学んだが

御蔭参流行・1771＝18歳：

田沼意次老中1772＝19歳：

・・・・・・1780＝27歳：

蘭学階梯・・1783＝30歳

意知刺殺事件1784＝31歳

・*四方赤良(大田南畝)に入門、たちまち頭角をあらわす。戯作の方でも、黄表紙「桜草野辺錦」を著わす。
_同志と「老葉子」刊、のちに対立する鹿都部真顔とともに「狂歌評判俳優風」に「立役極上上吉」をもって巻頭を飾るとともに、「徳和歌後万載集」「故混馬鹿集」にも入集、また赤良の母の六十賀宴の世話役をつとめるなど狂歌師として積極的に活動し、狂歌師としての地位を不動なものとした。

蝦夷初調査・1785＝32歳

田沼意次失脚1786＝33歳

寛政改革始・1787＝34歳

・・・・・・1788＝35歳

狂詩集「十才子名月詩集」、
「五十人一首狂歌文庫」刊、
「(百人一首)古今狂歌袋」刊、「狂歌才藏集」編、
「画本蟲撰」編。_この頃には真顔・光・銭屋金将らとともに狂歌四天王の一人に数えあげられ、南畝主催の「訳文の会」に参加し、漢籍の和訳を研究し始めるが、

初の横綱・・1789＝36歳：

異学の禁・・1790＝37歳

混浴禁止・・1791＝38歳

ツクシ来日・1792＝39歳

松平定信引退1793＝40歳：

・*家業の公事宿謎責一件に連坐して江戸払いとなり西郊成子村に隠棲、経緯示した「とはずがたり」成る。

_石川五郎兵衛と名を改めて、内藤新宿に移り、和学の研究に専念、

古事記伝・・1798＝45歳：

蝦夷地直轄始1799＝46歳

南畝主催の「和文の会」に参加して、研鑽に努め、

これがもととなって、のち「源氏物語」の注釈書である「源註余滴」や雅語用例書「雅言集覧」などの学術的にも価値の高い研究書を著わした。

げんろ来航・1804＝51歳

青洲麻酔手術1805＝52歳

以降、「敵討記乎汝」を刊行した。

「しみのすみか物語」刊。

ツバネ船狼藉・1807＝54歳：

フェートン号事件1808＝55歳

この頃から*狂歌界に復帰して{五側}を結成し当時の狂歌壇を席捲、真顔の{四方側}と対立し、勢力二分した。「職人尽狂歌合」刊。またこの年、中国俗語文学や笑話を和文で翻案した読本「天羽衣」「近江県物語」「しみのすみか物語」や、また「飛驒匠物語」のような傑作と評される作品をも著わした。

間宮海峡発見1809＝56歳

高田屋拿捕・1812＝59歳

浮世床・・1813＝60歳

随筆「都のてぶり」刊。

編「万代狂歌集」刊。_ようやく罪を許された。

「狂文吾嬬那万俚」刊。

・・・・・・1815＝62歳

伊能測量終・1816＝63歳：

杉田玄白没・1817＝64歳

水野忠成老中1818＝65歳

・南畝の仲介で、10年ぶりに鹿都部真顔と和解、

関西へ行く途中、近江日野で数ヶ月病臥し、紀行文「草まくら」、

・・・・・・1820＝67歳

江戸の壺岸島に移転、

異国船打払令1825＝72歳：

・・・・・・1826＝73歳

_代表作「雅言集覧」刊行始。

シボム事件・1828＝75歳

訳「通俗排悶録」刊行始。*真顔とともに俳諧歌宗匠号を授与され、

富籤流行・・1830＝77歳

_没した。

「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、